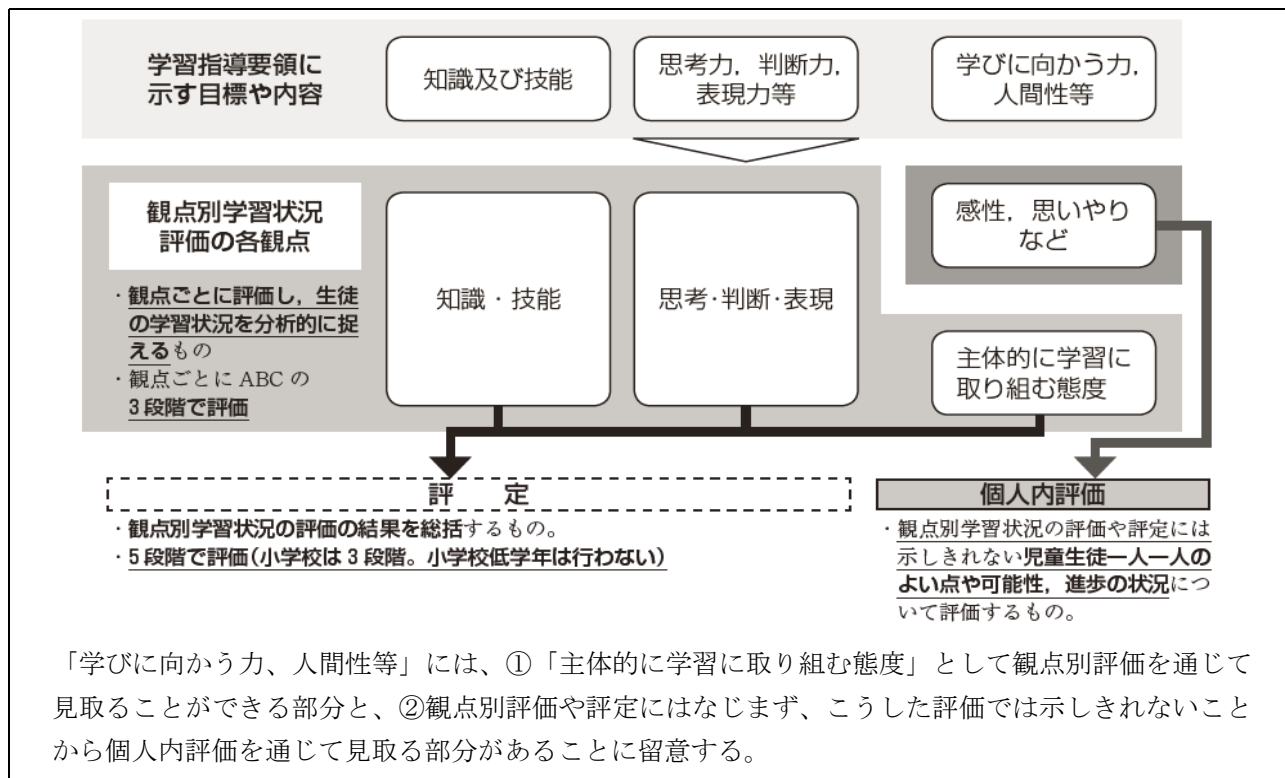


評価の具体例作成にあたって

① はじめに

「児童生徒の学習評価の在り方について」（平成 31 年 1 月、中教審報告）や、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について」（平成 31 年 3 月、文部科学省通知）において、評価について、次のように示されました。

【各教科における評価の基本構造】（報告 p. 6、9 より抜粋）



【各観点の評価について】（報告 p. 7～11 より抜粋）

<知識・技能>

- 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

<思考・判断・表現>

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

<主体的に学習に取り組む態度>

- ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

【評価の場面について】（通知 4. (2) より、下線は本稿にて付加）

学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であること。観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であること。

また、「各学校において学習評価を行う際の評価規準は、「内容のまとめりごとの評価規準」を基に、学習指導要領解説等を踏まえて作成する」こととされ、その補足資料として、「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」を作成する手順も示されました。

【理科第6学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」の概要】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</u> ・(A)について、観察、実験などを行い、<u>(B)について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての物事・現象に<u>進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※ (ア)、(イ)は、知識に関する内容。(A)は、内容のまとめりにおける学習の対象。(B)は、その場面での学習の対象。下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分。

※ 第6学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」全体は、後掲資料をご参照ください。

②「わくわく理科」における評価規準について

令和6年度以降用「わくわく理科」各単元における評価規準の具体例は、上記の観点や趣旨に従うとともに、実際の学習活動に即して授業場面内で見取ることができるように、各単元の指導計画に沿った形で作成しましたので、指導の実際に応じて、適宜修正してご利用いただければと存じます。

「評価規準」の具体例設定にあたって

- 「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準」（単元の評価規準）の各項目を、それぞれの実現状況が把握しやすい場面に割り振って、その場面に即した形で作成しています。
- ※「思考・判断・表現」については、その場面で主に育てたい問題解決の力を取り上げて設定していますが、他の力についても、単元全体を通して見取っていただければと存じます。
- ※「主体的に学習に取り組む態度」については、例示した場面以外でも、単元全体あるいは複数の単元にあたって、長期的に見取っていただければと存じます。
- 季節に応じた副単元などでは、全ての項目を網羅していない場合もありますが、年間を通して見たときに、漏れがないようにしています。
- 「感性、思いやりなど」にあたる目標（自然を愛する心情など）は、評価規準としては設定していませんが、個人内評価を通じて積極的に見取っていただければと存じます。

⇒「評価基準」について

「評価規準」に達している場合がB評価、達していない場合がC評価となりますので、評価規準をB基準としています。十分満足できると見取る（A評価）児童の状況の例や、B基準に達していない場合の手立ての例も掲載していますので、ご参考になりましたら幸いです。

⇒「本時の目標」との対応

それぞれの『時』の「本時の目標」は、指導書の「指導案（研究編）」「朱註のページ（朱註編）」に掲載しますが、その内容は、「評価規準」と共通としました。

（「指導と評価の一体化」に鑑みて、それぞれの『時』に割り振った「評価規準」の内容を、その『時』の「本時の目標」として設定しています。なお、文末表現は、「評価規準」においては「～している」など、「本時の目標」においては「～できる」「～する」などで統一しています。）

（評価について、詳しくは指導書「総説」にも掲載しています。）

資料：第6学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」について

【第6学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」の概要】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</u> ・(A)について、観察、実験などを行い、<u>(B)について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての事物・現象に<u>進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※ (ア)、(イ)は、知識に関する内容。(A)は、内容のまとめりにおける学習の対象。(B)は、その場面での学習の対象。下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分。

【第6学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」】

→青文字は、教科書「わくわく理科」におけるおもな該当単元名

A(1)「燃焼の仕組み」の「より具体的な評価規準（例）」

→教科書単元名：「1. ものが燃えるしくみ」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。 ・燃焼の仕組みについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼の仕組みについて見出した問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ・燃焼の仕組みについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼の仕組みについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・燃焼の仕組みについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

A(2)「水溶液の性質」の「より具体的な評価規準（例）」

→教科書単元名：「5. 水よう液の性質」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあることを理解している。 ・水溶液には、気体が溶けているものがあることを理解している。 ・水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解している。 ・水溶液の性質や働きについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の性質や働きについて見出した問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ・水溶液の性質や働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の性質や働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・水溶液の性質や働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

A (3) 「てこの規則性」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「8. てこのはたらき」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 力を加える位置や力の大きさを変えると、てこを傾ける働きが変わり、てこが釣り合うときにはそれらの間に規則性があることを理解している。 身の回りには、てこの規則性を利用した道具があることを理解している。 てこの規則性について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> てこの規則性について見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 てこの規則性について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、力を加える位置や力の大きさとてこの働きとの関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> てこの規則性についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 てこの規則性について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

A (4) 「電気の利用」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「9. 発電と電気の利用」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができることを理解している。 電気は、光、音、熱、運動などに変換することができることを理解している。 身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があることを理解している。 電気の性質や働きについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気の性質や働きについて見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 電気の性質や働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、電気の量と働きとの関係、発電や蓄電、電気の変換について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気の性質や働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 電気の性質や働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

B (1) 「人の体のつくりと働き」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「2. ヒトや動物の体」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていることを理解している。 食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されることを理解している。 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいることを理解している。 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があることを理解している。 人や他の動物の体のつくりと働きについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 人や他の動物の体のつくりと働きについて見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 人や他の動物の体のつくりと働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 人や他の動物の体のつくりと働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 人や他の動物の体のつくりと働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

B（２）「植物の養分と水の通り道」の「より具体的な評価規準（例）」

→教科書単元名：「3. 植物のつくりとはたらき（「②植物と空気」を除く部分）」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。 植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の体のつくりと働きについて見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 植物の体のつくりと働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の体のつくりと働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 植物の体のつくりと働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

B（３）「生物と環境」の「より具体的な評価規準（例）」

→教科書単元名：「3. 植物のつくりとはたらき（「②植物と空気」の部分）」「4. 生物どうしのつながり」「10. 自然とともに生きる」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていることを理解している。 生物の間には、食う食われるという関係があることを理解している。 人は、環境と関わり、工夫して生活していることを理解している。 生物と環境について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物と環境について見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 生物と環境について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物と環境についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 生物と環境について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

B（４）「土地のつくりと変化」の「より具体的な評価規準（例）」

→教科書単元名：「7. 大地のつくりと変化」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 土地は、礫、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあること、また、層には化石が含まれているものがあることを理解している。 地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできることを理解している。 土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解している。 土地のつくりと変化について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 土地のつくりと変化について見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 土地のつくりと変化について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 土地のつくりと変化についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 土地のつくりと変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

B(5)「月と太陽」の「より具体的な評価規準(例)」

→教科書単元名:「6. 月と太陽」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・月の輝いている側に太陽があること、また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わること理解している。 ・月の形の見え方について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月の形の見え方について見いだした問題について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ・月の形の見え方について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察する中で、月の位置や形と太陽の位置との関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月の形の見え方と太陽との位置関係についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・月の形の見え方と太陽との位置関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。